

タイヤ整備機器 TOPに聞く

## ①小野谷機工

され、あるいは店舗を集約するといった変化が現れています。このように背景とし、当社のイヤサービス機器需要は台数でみると前年実績横ばいか、やや減少傾向にあります。

ただ、機器需要の内容は、コロナ禍以前よりも一層多様化した点に注目しています。現場での人手不足、安全性がより重視されるようになったこと、SUVやEVが増えたことにともないタイヤ自体が変化したこと――そのような環境の変化によってお客様の『困りごと』が増え、それとともにないニーズが変化していきます。こういった変化に対応

社が掲げる『タイヤサービスソリューション』とは、市場の動きやニーズの変化を的確にとらえ、敏感に察知しチャンスに変えるということを意味します。それにより事業の一層の成長を目指すということです。営業、企画・開発、製造、それぞれの部門でそういう感度をあげていく必要があります。このほど当社が経営体制を新たにしたのは、それを実現することを目標のひとつとしています」

売上高における陪品ミツクスに関しては、高付加価値商品が好調に推移しています。人手不足を背景として、レバーレスチェックンシャーを中心化をサポートする機器が伸びをみせました。

利益面については、燃料をはじめ材料、人件費など のコストが大きく上昇しており、売上高の伸びに追いつくことができませんでした。

コロナ禍で材料の調達に苦労した時期が続きましたが、感染症の法的分類が変更されたことで、サプライチェーンの供給は円滑に戻っています。ですが、インフレの傾向は続いているので、自社の生産性を

中林「出展した機器を一覧になつたお客様から『いろんなに良くなつたのか』と賞賛の言葉をいただきました。ただし、その一方で、機能が増えたことで機器の操作が複雑化したのではないか、と受け取られるお客様もいらっしゃいました。レバーレスチエンジャーを例にあげますと、さらなる自動化・軽労化を実現しようとして操作スイッチやボタンが増えてしまつ——毎回同じ作業をすれば身体で覚えてしまいますが、ときどき行つていう場合、いざやろうとしても使えないことがあります。

フルオートのチェンジャーでそのようなケースがみられていました。そこで当

うスタンスで機器を開発していこうへ手が届く」と  
続けて参りたい」

夕子、いまい市へ要望を行ふるか。自動車、ら、自ら、合はれ、運転して、運送業者に連絡し、競合複数の業者と競争する。これが競合複数の業者による競争である。

「…と示イルとの組み合いで無限にあることが、それを踏まえたうえで、化の精度をいかにあげることで、お客様のご要望にお応えする商品を上にいとと考え取り組んで、産学連携で共同研究すること」

オートチエンジャー やターリフターといった軽労省力化に対応するサ一人機器を使われたお客様から「腰痛の予防に効果があった」と作業負担を軽減でこのような経験価値を) 提して参りたい。

当社商品に対しお客様のヒートが高いのは、経験の高さの表れだと思っています。「安心して使え耐久性が高く長持ちす」という経験価値をこれも積み上げることで、ダニのブランド力をあ企業の価値をあげる。つうい好循環をつくつてたいと考へています」



宇田公郎社長(右から2番目)／中林一浩常務執行役員(同3番目)／牧野智將執行役員(右)／杉本和則部長(左)

が、当社はメイドイン・ジャパンを貫いており、田畠調の環境下でも輸入品と価格差がありました。だから、当社は高付加価値商品について集中的に營を行うという戦略をとり、お客様のニーズに応えする商品のつくり込み徹底してきて います」

——  
第37回 オートサー  
「2023年」で  
ビスショ—手応えは。

由「高付加価値商品への  
ノットをさらに強めるた  
は、商品の開発力を高  
くてはなりません。そ  
くために産学連携の取り  
組みを開始しています。共  
同研究を行い、開発技術開  
拓人材育成のための投資  
をつかりと行っていきま  
す。このような戦略的投資  
極的に行なうことが当社の  
力を使養うこととなり、  
このようにして今後の収益の  
につなげていこうと考え  
ます」

同時に、海外からの技能実習生や留学生の受け入れを行い、開発・製造の現場で活躍できるよう独自の研修制度や施設面を充実させています。ジエンダーや年齢にどうわざず働ける職場環境づくりと職制を設けており、人材の多様性に対応する企業努力を続けます。先行きが不透明な状況であるなかで、私どもはさまざまな経営課題に取り組む必要があります。中小企業はスピード感が大事ですので、その良さを成長過程で失うことがないようにしたい。

経験価値をブランド力につなげ

可能なタイヤサービス機器の需要が、商品のなかで非常に伸びています。

メーカーとしての商品開発力や企画力——これらが一段と強く求められるよう

供給が滞ることもありました。アフター、スに対する安心感がともに評価いただいです。このようなことです。と言えると思います。

直接ご覧いただきました。さまざまなご意見とご感想をいただき、それがわれわれの成長につながっていくものと確信しています」

「えます」

失うことがないようにした  
い。

いかにあげるかなど、それへの対処が次期の事業運営の改善ポイントとなります」

社はセミオートのエンジヤーを開発し、オートサービスショリーに出展しました。昨今、人手不足が続ぎ、経験の多寡を問わず、どなたでも高い品質で、どのようないいタイヤであっても同じように作業を行うことが可能な、『なんでもできる』セミオートのエンジヤーをご提案することで、強い反響がありました。

SUVなどへの対応についてですが、装着されるタイヤは大きくなり重くなるので、車の重量を積む上でも少し重めです。

—24年の展望を。

同時に、海外からの技能実習生や留学生の受け入れを行い、開発・製造の現場で活躍できるよう独自の研修制度や施設面を充実させています。ジエンダーや年齢にとらわれず働ける職場環境づくりと職制を設けており、人材の多様性に対応する企業努力を続けます。先行きが不透明な状況であるなかで、私どもはさまざまな経営課題に取り組む必要があります。中小企業はスピード感が大事ですの